

創刊号

市柔連だより

健 心

平成17年3月21日発行

発行所

高岡市石灘6-1 集谷建設㈱内

高岡市柔道連盟

TEL 23-4658

FAX 28-2755

編集発行

広報部



原田先生を偲んで

高岡市柔道連盟

会長 江 嵐 賢 治



平成十六年十二月二十四日、原田興次先生のご逝去
 を聞き、高岡市柔道連盟会員一同は、驚きと悲しみで
 います。

例えば、原田先生は素朴で実直な人柄の先生でした。

高岡市柔道連盟にとって、ときには慈母となり、またときには厳父となつてご指導くださった大先輩であります。

先生の心のこもったお力添えとご指導のお陰で、多数の柔道マンが育っております。特に寝技において、絞技や関節技等に抜きん出た選手が多く育ち、それぞれ活躍しております。この柔道マン達が、また若い後輩を指導し、育んでいくことでしょう。

思い起こせば、昭和四十五年八月十六日、国民体育大会の富山県代表選手をさめる「第一回富山県柔道選手権大会」を高岡市柔道連盟で主管することになり、原田先生のご自宅を開放されて、故小谷平作会長を中心に深夜まで大会準備等大変なご苦労をされた姿を、つい昨日のように思い出されます。

「あんたらっちゃん、何しとっがいねしっかりしられまあ。」今も先生の声が聞こえてくるような気がします。

又、高岡武道館に掲示板の設置や、紅白幕の寄贈等、人にはまねの出来ない物心両面にわたるお世話をされて、私どもに大きな遺産を残してくださいました。

これからも先生にご相談したり、ご指導をいただくと思つていた矢先の訃報、まことに慟愧に耐えません。

これまでの親身も及ばぬご指導に心から感謝いたしますとともに、高岡市柔道連盟会員一同は、更に力を合わせ、柔道発展のため努力してまいります。

原田先生



新理事長就任

高岡市柔道連盟

理事長 小竹 一 良



平成十六年役
員改選にあたり、
江嵐会長はじめ
諸先生諸先輩方
のご理解により、

福田宗志前理事長の後を受け継ぎ、
新理事長に就任させていただきました、大
変光栄に思うと共に責任の重大さを
日毎に感じている次第です。

現在高岡市柔道連盟は、会員数約
二〇〇名余りと、各地区スポーツ少
年団の人数一〇〇有余名で構成され
ております。

昨年は、県体一般の部で十一連覇
という前人未踏の記録を達成。中学・
高校も県体・北信越大会に出場。ス
ポーツ少年団も、西条スポーツ少年
団を筆頭に全国大会に出場活躍する
など、各年令層で富山県下にも高岡市
柔道連盟ここにありという、強いイ
メージを植え付けました。今年も更
なる飛躍を期待しております。

県営高岡武道館に於いて、健心会
という名前で、月・水の週二回、小・
中・高・一般の柔道を楽しむあらゆ
る年令層の人々が集まり、稽古に励
んでおります。高岡市柔道連盟から、
全国的な選手が出て来るように心か
ら願っております。

高岡市柔道連盟が更なる発展する
ように協力ながら頑張るつもりです。
今後とも役員の先生方、又会員の
皆々様のご理解ご協力を心からお願
いいたします。

県民体育大会の連覇にむけて

監修 増本 幸 俊

春暖の候、高岡市柔道連盟会員各
位におかれましては、ますますご清
栄のこととお喜び申し上げます。平素
は一般の部強化事業にひときかたなら
ぬご理解・ご尽力を賜り、厚くお礼
申し上げます。

若い私に一筆ということでありま
すので県民体育大会十一連覇までの
こと、十二連覇に向けての意気込み
を少し書きたいと思っております。

単純に、十一年連続で勝つとい
うことはとても大変なことであるの
はもちろんのこと、それに携わる関係
者の苦勞はただならぬというところ
を改めて感じた一人でありました。

そのなかでも杉江前監督は勝つため
になにをすればいいかを日々考え、
選手とのコミュニケーションを真剣
に考えられた試合前の下準備とはこう
いうもんだよ、という事を学ばせて
いただきました。さらに試合当日に
は自ら選手に声を掛け緊張を和らげ
る心遣いも学ぶ事が出来ました。総
合的な観点からも色々気を使われ、

連覇という大きな偉業を成し遂げる
事が出来たと思っております。また江
嵐会長をはじめとした、関係者の皆
様の協力が支えになり、選手もが
び指名のだと思っております。本年も
ご指名があるならば、松浦強化部長
を柱に、県民体育大会十一連覇とい
う栄光に輝くことなく、十二連覇、
十三連覇と記録を塗り替えて行きた
いと思っております。また、これまで諸先
生方から教わったことを念頭に、高
岡市柔道連盟という誇りある団体を
県内はもとより全国にとどろかせる
ため、関係者ならびに選手一同、頑張
っていきたいと思っております。至らぬ点
が多々あるかとは思いますが、これか
らもうご理解ご協力賜りますよう心か
らお願い申し上げます。

全国大会低学年三位入賞

監修 関 邦 夫

五月九日高岡市春季大会が行われ
ました。この大会で勝ち抜いたもの
だけが「高武道館」のゼッケン付たけ
八月の日本武道館の試合に参加でき
る。そして選ばれた低学年チームの
五人は先鋒から岩城建敬君、又場郁
哉君、尾山武史君、小松那奈さんそ
して大将、江添圭吉君である。

みんな優秀な子供たちばかりです。
日本武道館の大舞台で日頃の練習成
果を十分発揮する事は大変難しいと
いうことを私が身を持って経験して
います。案の定一回戦は三対二と苦
戦をしたが、何とか勝利を収めるこ
とができホッと胸をなでおろした。

この子連のすばらしいのは十分わかっ
ていたので、その後二回戦二対一、
三回戦二対一、結果だけ見れば接戦
のように思えるが安心して見ていら
れた。試合をこなす度に子供たちは
成長しているようで、たのもしくさ
え見えてきた。四回戦においては四
対一と圧勝し、子供たちは波に乗っ
ていた。準々決勝は二対〇と接戦を
もていた子供決勝は、「一つ一つ精
一杯夢中で頑張ろう」としと声を
かけてあげられないほど感動した
ものです。

ここまで来ると試合の間隔も短く
水分補給に苦労した。たくさん持つ

十六年度昇段者

六段	笹島 孝志
五段	定司 奈紀
四段	久々江 孝志
	小松 正徳
	中崎 達也
三段	小竹 良次
	米納 朋次
	久保田 悦子
	谷内 愛美
	小林 山佳
	古田 知春

平成16年度 全日本少年武道錬成大会



ていったつもりのスポーツドリリンクも底をつき父兄に頼り買出しに行ってもらった。あの時は子供たちと応援父兄が一体となり、スポーツドリリンクを買った子供たちは疲れた様子も見せず次の試合に備えていた。今思えば、一番疲れていたのは私自身であっただけか？

準決勝が始まった。中堅が終わって一対一の同点！副将戦が始まってまもなく、相手監督が注意を受けている。審判に罵声を浴びせたからである。試合には一対三と負けたが、子供たちは堂々と三位表彰式に出て行った。

またこのような結果が残せたのも、高岡市柔道の会長はじめ諸先生、少年柔道の父兄の皆さん、松浦強化練

成部長、そしてスポーツ少年団内河理事長のお陰だと思って感謝しています。ありがとうございます。あの広い日本武道館で試合を六回、戦った子供たちは大変貴重な経験をした。この経験は今後の柔道人生に生かされる。私は確信しています。

平成十六年度 中体連強化について

中学校部会長
高岡市立吉野中学校
教諭 高松 毅

中学校の競技主任を仰せつかって七年が経った。この間、各学校共に部員の減少が加速する中で、団体四連覇、男女とも団体県制覇など団体での実績や、毎年、個人でも多数の全国大会出場を果たすなどの輝かしい結果を残すことができた。

その大きな原動力となったのが、高岡市柔道連盟の全面的バックアップである。毎月二回平均の合同強化練習、合宿など、連盟の援助なくしてはできない事業である。近年は、週二回の「健心会」の活動が本格化、学校の区別なく体をかけ、熱心に指導していただいたことが今年の全国大会五名出場(史上最多)という快挙につながっている。

中学校を卒業し、高校・大学でさらに輝かしい成果を上げている生徒を多数輩出したことは喜ばしいこと

である。しかし、一方でなかなか上達せず悩みながらもがんばっている生徒、結果が出なくてもずっと柔道が続いている生徒がたくさんいる現状をうれしく思う。

生涯スポーツの原点を見る思いがする。選手の強化と併せ、柔道のよさ、素晴らしさ、柔道が大好きだという生徒を今後ともたくさん育てていきたい。

平成十六年度 スポーツ少年団強化について

少年強化部理事 宮 越 務

健心会強化練習が毎週、月曜日・水曜日に行われ、小学生から一般まで幅広く沢山の人が練習に参加、あわら柔道スポーツ少年団、西条スポーツ少年団も健心会強化練習に参加、合同練習をしています。練習試合などを交えて七〇人近い子供たちが汗を流しています。

上級生は、時々中学生・高校生・一般有段者の人達とも乱取稽古をしています。

高段者の先生方にも技の基本や礼儀の指導を受けたり、西条スポーツ少年団監督が塩谷建設女子柔道部員を呼んで、技の指導や、乱取、寝技などの練習も行っています。

これらの練習の成果が昨年度、大会成績に現れ、西条スポーツ少年団・

県大会優勝、あわらスポーツ少年団・準優勝に輝きました。

これからも、みなさんのご協力と指導者の力を合わせて、高岡市柔道スポーツ少年団を強くしていきたいと思えます。

全日本柔道連盟登録について

登録部員 岩 城 裕 之

★登録の義務

登録は、日本柔道の競技面における統括団体「全日本柔道連盟(以下、全柔連)」の一員としての「証」です。したがって、全柔連は勿論のこと、

富山県柔道連盟、高岡市柔道連盟およびその下部組織において、役員、選手として活躍する全ての人が、「全柔連登録」しなければなりません。また、昇段する場合は「全柔連登録」が必要とす。

★登録の意義

一、登録は、全柔連の一員としての証明書

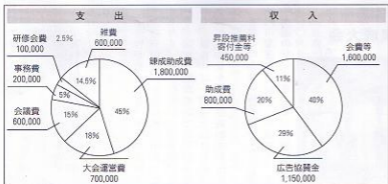
二、登録は、全柔連の役員・指導者(監督・コーチ)・選手としての活躍を保証するもの。

三、登録費は、全柔連、県柔連の運営資金の基幹となっています。

四、登録人口は、その競技の人気のバロメーターです。多くの登録が、柔道の社会的地位づけを高めることとなります。

総務だより

会員の皆様からいただいた会費・若獅子青少年柔道大会の広告協賛金・富山県・高岡市・高岡市体育協会からいただいた助成金など、御厚意による寄付金等計約四〇〇万円はこの様に使われています。



アテネオリンピックを観戦して

財団法人 全日本柔道連盟
事務局長 津 沢 寿 志

昨年はオリンピック発祥の地アテネに於いてオリンピック大会が開催された。日本が生んだ柔道は一九六四年の東京オリンピック以来、広く世界に普及・発展し、国際柔道連盟への加盟数が一八七カ国にも上った。以来約四〇年間に柔道スタイル、試合方法、ルール等、善しにつけ悪しきにつけ、世界の柔道は日まぐるしく変化してきた。その様な状況の中、柔道はアテネオリンピックでは過去類を見ない最高の成績、最高の試合内容を収め、金メダルは八個という快挙を成し遂げたのである。

勝因においてはいろいろあるが、あえて特筆するならば、第一に「一本を取る柔道」に徹した事。八八年ソウルオリンピックで金メダル一個という惨敗を喫したその苦い経験を機に、幾多の議論の末、日本の柔道界が出した方針は目先の結果にこだわらず、日本人が体力に勝る欧米人に勝ち続けるには、技術に立脚した一本を取る柔道の確立を目指すというもので、それ以来大会ごとに成果が表れ今回につながったと思う。ちなみに金メダリスト八人の四〇試合中、三五試合が一本勝ちであった。第二はサポート体制の充実について、

今後の強化も同様であるが技術力向上をキーワードに、柔道に合った最新の科学的トレーニングやメンタルトレーニングを強化合宿の際に導入し栄養面に関してもきめ細やかな栄養サポートを行っている。また、情報戦略スタッフを各種国際大会等に派遣をし、幅広い情報収集を行い効果的な活用等、充実を図っている。今回のアテネオリンピックでは、栄養士をはじめ、医師、マッサージ師、メンタルトレーナーや練習相手、選手の相談相手等、約七〇名のスタッフを派遣した事で、選手は試合に力を発揮できたのではないかと思う。

第三は審判技術の向上とルールの見直し、ゴールデンスコアリーの導入により、審判の反則の取り方が従来より速く、技重視の日本に有利に働いたことも大きかった。

なお国策の一つ、文部科学省が二年前よりオリンピック金メダル増進計画、ゴールドプランが打ち出され国費強化予算が組み込まれた事である。これによって、いろいろな強化体制を考える事が、できるようになった。

以上、アテネオリンピックを振り返って、上記に挙げたような事柄等を私なりに分析を見てみた。

最後に北京オリンピックに向かって新しいスタートを始めるに至り、我々全柔連一同は今まで以上にアグレッシブに選手強化に取り組んで行

く所存である。皆様には、これまで以上のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

創刊にあたり

広報担当副理事長 中 村 彰

この機関紙は、他の機関紙と違って、形にはまらない斬新なアイデアと工夫を持って校正され、市柔連に関わる情報・記事・行事・エピソード・啓蒙等を伝えていきます。

「市柔連だより」は会員の誰でも執筆することができ、自由な発想と豊かな感性を持って、会員相互のコミュニケーションを図っていきたいと思います。創刊号を発刊するにあたり、会員の皆さんのご理解を頂き、たくさん意見を聞き、広報活動が活発になることを期待します。

編集後記

広報誌をようやく発行することができました。

原稿をいただいた先生方には、誠にありがとうございました。皆さんに楽しんでもらえる広報誌をめざしておりますので、ご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸いです。

広報部長 柴 田 成 人

★★★★★★ がんぼった子どもたち ★★★★★★★

第57回高岡市民体育大会柔道競技会 (少年の部)

- 1位 高岡西条スポーツ少年団A
- 2位 高岡西条スポーツ少年団B
- 3位 戸出柔道スポーツ少年団
- 3位 あわら柔道スポーツ少年団

(一般の部)

- 1位 健心会
- 2位 塩谷建設

(中学男子の部)

- 47kg級
- 1位 中村 竜一(芳野)
- 2位 林 宏昌(中田)
- 3位 杉本 裕介(国吉)
- 3位 中村 武文(戸出)

• 55kg級

- 1位 村田 宏介(伏木)
- 2位 江川 翔太郎(五位)
- 3位 藤田 尚宏(中田)
- 3位 大居 雄治(中田)

• 60kg級

- 1位 西浦 太郎(伏木)
- 2位 酒井 健人(中田)
- 3位 松林 寛三(伏木)
- 3位 西浦 史也(伏木)

• 66kg級

- 1位 茶木 健至(中田)
- 2位 榎本 亮太(南星)
- 3位 藤原 裕志(五位)
- 3位 甲斐 秀二(高岡西部)

• 73kg級

- 1位 元平 佳伸(伏木)
- 2位 野宇 匡洋(芳野)
- 3位 早川 翼(中田)
- 3位 増井 健太(伏木)

• 81kg級

- 1位 押野 大介(中田)
- 2位 田中 健一(中田)
- 3位 山川 琢磨(国吉)
- 3位 竹内 一浩(志貴野)

• 81kg超級

- 1位 又場 義明(伏木)
- 2位 小杉 史哉(中田)
- 3位 田中 雄大(戸出)
- 3位 榎木 卓(志貴野)

(中学女子の部)

• 44kg級

- 1位 森島 美奈香(高岡西部)
- 2位 狗井 もも子(高陵)

• 48kg級

- 1位 中 智央(志貴野)
- 2位 岩城 優里(志貴野)

- 3位 中川 冬美香(五位)
- 52kg級

- 1位 朝日 美佳(中田)
- 2位 小林 弘実(中田)
- 3位 水上 莉沙(志貴野)
- 3位 金場 愛美(五位)

• 57kg級

- 1位 竹内 愛美(中田)
- 2位 嶋田 恵利子(志貴野)
- 3位 萩野 友紀子(五位)

• 63kg級

- 1位 林 山梨(芳野)
- 2位 吉崎 恭子(志貴野)
- 3位 河合 美紀子(中田)
- 3位 小島 茜(志貴野)

• 70kg級

- 1位 萩布 優子(中田)
- 70kg超級
- 1位 嶋田 理加子(志貴野)
- 2位 眞訪 由利子(高岡西部)

【高武館チーム試合結果】

第14回富山県スポーツ交流大会

競技別柔道大会

- 準優勝 高武館A
- 3位 高武館B

第24回北信越ブロックスポーツ少年団

競技別柔道交流大会(滑川)

- 2位

第36回全日本少年柔道練成大会

(日本武道館)

- 3位 高武館低学年

第18回高岡市スポーツ少年団

春季柔道練成大会

• 1年生の部

- 1位 沙魚川 拓生(伏木少年)
- 2位 萩布 泰子(中田スポ)
- 3位 田辺 恭梧(西条スポ)
- 3位 三辺 吉紀(あわらスポ)

• 2年生の部

- 1位 小松 史歩(櫻心塾)
- 2位 山村 寿音(あわらスポ)
- 3位 西村 芹菜(戸出スポ)
- 3位 中川 佳奈恵(櫻心塾)

• 3年生の部

- 1位 中川 貴志(櫻心塾)
- 2位 関岡 真琴(戸出スポ)
- 3位 西村 理沙(戸出スポ)
- 3位 佐武 和善(西条スポ)

• 4年生の部

- 1位 江添 圭貴(戸出スポ)
- 2位 尾山 武史(あわらスポ)

- 3位 岩城 耀歌(あわらスポ)
- 3位 小松 那奈(櫻心塾)
- 5位 又場 郁哉(伏木少年)

• 5,6年生の部

- 1位 杉本 俊貴(西条スポ)
- 2位 佐野 賢世子(西条スポ)
- 3位 立浪 祐(西条スポ)
- 3位 平田 翔(あわらスポ)
- 5位 背 俊幸(あわらスポ)

• 幼児の部

- 1位 針山 大河(櫻心塾)
- 2位 吉見 啓太郎(中田スポ)
- 3位 名児耶 太誠(あわらスポ)

第19回高岡市スポーツ少年団

秋季柔道練成大会

• 団体戦高学年

- 1位 西条柔道スポーツ少年団A
- 2位 あわら柔道スポーツ少年団A
- 3位 戸出柔道スポーツ少年団A
- 3位 西条柔道スポーツ少年団B

• 団体戦低学年

- 1位 戸出柔道スポーツ少年団A
- 2位 あわら柔道スポーツ少年団A
- 3位 西条柔道スポーツ少年団A
- 3位 西条柔道スポーツ少年団B

平成16年度高岡市出身全国大会出場者

• 第1回全国小学生学年別柔道大会

- 小学5年生女子軽量級出場
上田 莉那(あわらスポーツ少年団)
- 小学6年生女子軽量級出場
赤川 華純(正心館早苗道場)

• 第13回日整全国少年柔道大会

- 5年生
水谷 尚矢(あわらスポーツ少年団)

• 第35回全国中学校柔道大会

- 女子52kg級出場
朝日 美佳(中田中学校)
- 女子57kg級出場
竹内 愛美(中田中学校)
- 女子70kg級出場
萩布 優子(中田中学校)
- 女子70kg超級出場
竹内 優香(中田中学校)
- 男子60kg級出場
西浦 太郎(伏木中学校)
- 第53回全国高等学校柔道大会
男子100kg級出場
土倉 慶太(中田中学校一小杉高校) 3位入賞
- 女子団体出場
京都由香里(南星中学一小杉高校)
- 江川 光希(五位中学一小杉高校)